

学校新聞

おおまち



417号

《発行》

旭川市立大町小学校

《発行日》

令和6年11月22日



子どもたちの姿から学ぶこと

校長 加藤 晴 久

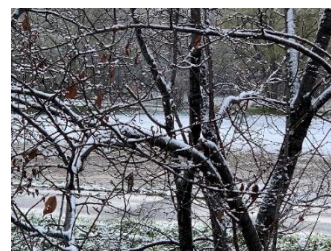
今年も残りあと1か月あまりとなり、雪がちらつく日も増えて、本格的な冬が間近に迫っています。先日の朝、いつものように校門前で子どもたちを迎えようと学校の玄関を出たところ、3・4年生の子どもたちが、「校長先生！池が凍っているよ、水たまりも凍っている！」と嬉しそうに報告してくれました。水たまりの氷を足や手で触って、「つるつる滑る！」「冷た～い！」と口々に言いながらとても楽しそうでした。その後、高学年の子が、ガラスのような透き通った氷の塊を通学の途中で見つけたらしく、それを私に自慢気に見せてくれました。子どもたちは自然の変化に敏感に気づき、その変化に興味深く見ることができる姿に微笑ましく感じると同時に、生き生きとした表情の子どもたちが羨ましく感じました。

冒頭にも書きましたが、今年も残りわずか、「1年が過ぎるの早いな」と感じるのは私だけではないと思います。年々、1年が過ぎていくのが早く感じてしまいましたが、年を重ねるほど時間が早く経つように感じる現象のことを「ジャンネの法則」と呼ぶそうです。

ジャンネの法則とはフランスの哲学者ポール・ジャンネが発案し甥の心理学者ピエール・ジャンネが著書において紹介された法則で、「主観的に記憶される年月の長さは年少者にはより長く、年長者にはより短く感じられる」という現象を、心理学的に説明したものだそうです。つまり、生涯のある時期における時間の心理的長さは、年齢に反比例するということです。また、以前、NHKの「チコちゃんに叱られる」という番組で「大人になるとあっという間に1年が過ぎるのはトキメキがなくなったから」という内容をとりあげていました。番組の説明は、時間の感じ方には心がどのくらい動いているかが重要で、トキメキやワクワクを忘れてしまった大人たちの1年はあっという間に過ぎていってしまうというものでした。

確かに、子どもたちは日々の何気ない出来事に対して、興味をもったり、新しい発見をしたりして、いつもワクワク・ドキドキ状態で過ごしています。大人になるにつれて、自然の移ろいや変化も当たり前のものとして感じるようになり、子どものころのような気持ちを揺さぶられるような出来事は少なくなってきています。しかし、子どもたちが水たまりにできた氷をみて、目をキラキラさせている楽しそうな表情を見ると、自分自身も自分から新しいことにチャレンジし、ワクワク・ドキドキを見つけることができればと考えてしまいます。それが、大人にとっても日常の充実となり、ジャンネの法則の打破に繋がると考えます。

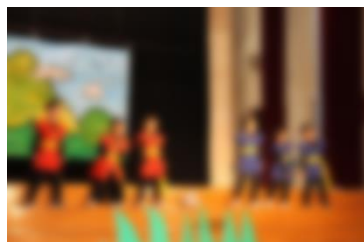
日々、仕事や家事で忙しく日常を過ごしている大人にとって、夢や希望をもつことだけでなく、日常のちょっとした変化に興味をもつことも、人生を豊かにするために必要なことだと、子どもたちから学んだような気がします。



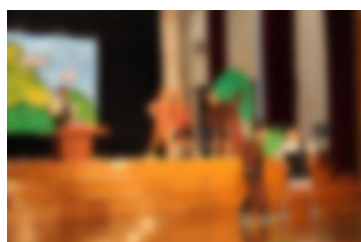
「大町っ子心を一つに！笑顔でいっぱいの学芸会！」

…10月26日

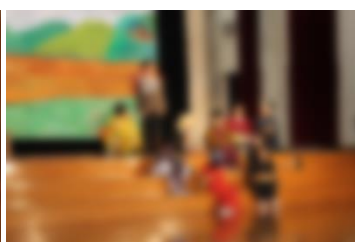
大町小の学芸会は、一人一人のよさが結集し、心を一つにして完成させる笑顔がたっぷりのステージです。今年も、ユニークな仕草に笑いあり、感動の場面に涙ありの演目演技、会場いっぱいの大きな拍手に、更に大きな自信を得た大町っ子でした。



1年 忍者大集合！



2年 あまからしるこ



3・4年 まぬけ村物語



5・6年 小粒の猫

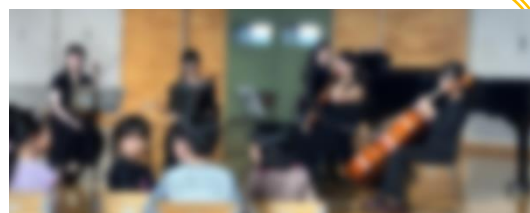
「人権」について考えました

6月に3・4年生が、「人権の花」の苗を贈呈いただき、玄関前に飾って大切に育ててきました。11月8日には2名の人権擁護委員の方が来校され、感謝状をいただきました。また、5年生には「人権カード」を配付いただき、「人権」は全ての人がもち、大切にするべきものであることを学びました。



アウトリーチコンサート

前号でお知らせしました台湾の大学生によるアウトリーチコンサートが行われました。ピアノとバイオリン・ビオラ・チェロの音色にうっとりする子どもたち。最後には、全校合唱で練習している「カントリーロード」を五重奏の伴奏で歌うという大サプライズも！歌いながら感動で涙を流す子もいました。聴衆はもちろん演奏してくださった皆様も聞いたところによると涙が込み上げていたそうです。音楽の力の大きさを実感する貴重な体験となりました。



12月のおもな行事予定

2日(月) PTA守る日 図書返本週間(～6日)

3日(火) 参観日(3～6年)

スクールカウンセラー来校

4日(水) 参観日(1～2年)

6日(金) 委員会

10日(火) 諸費引落日 学力テスト(全学年)



13日(金) 冬の集団下校訓練

16日(月) 朝会 冬休み図書貸出し(～20日)

25日(水) 2学期終業式

26日(木) 冬季休業開始(～1月14日まで)

10月28日より産休に入りました岩間教諭の代替として、赤嶺大和教諭が着任いたしました。

令和6年度 大町小 全国学力・学習状況調査の結果から

本年度実施した全国学力・学習状況調査について、全国・北海道・旭川市の調査結果の概要が公開されました。そこで、本校の調査結果の概要をお知らせします。学校として分析結果をふまえ、さらに本校の教育活動を充実させていきたいと考えます。今後ともご協力をいただきますようお願い申し上げます。

国語

《調査結果の分析と改善策》

○国語

個人差は大きいものの、全体的に全国平均、北海道平均を下回っていますが、内容(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」や観点①知識・技能等、領域、観点別の正答率においては、やや全国を上回る設問もありました。特に内容(2)情報の扱い方に関する事項は9割の正答率を示していました。

課題については、「情報の扱い方に関する事項」は全道・全国の正答率よりも低い正答率になっていました。

問題形式別の正答率では、前年度同様、記述式の正答率が他の問題形式よりも低い正答率となっています。今回も全く書けない訳ではないのですが、いくつかの条件は満たしているものの、全ての条件を満たさきれていないという解答が見られました。

【改善策】

全体的に記述式の正答率が低い傾向があるので、今後も短時間で自分の考えをまとめて書く、キーワードを捉え要約する、などを大切に学習を今後も展開していく必要があります。朝活等の時間を利用した、ドリルパークを利用した前学年までの漢字や文法の復習をすることも効果的な学習になっているので、今後も継続的に取り組む必要があると考えます。

また、国語の学習だけでなく、他の学習でも自分の考えや大事な言葉(用語)を落とさずに短い文章で要約することなどを繰り返し行い、記述することに抵抗なく取り組めるようにしていくことも重要だと考えます。

算数

《調査結果の分析と改善策》

○算数

個人差は大きいものの、全体的に全国平均、北海道平均を下回っていました。特に、領域A：数と計算の正答率については全国平均、全道平均を大きく下回った一方で領域B：図形の正答率については、全国、全道平均を大きく上回りました。また、問題形式別にみると、短答式の問題の正答率が高い一方、国語と同様に記述式の問題の正答率がかなり低い傾向にあります。領域A：数と計算についてはすべての問題において正答率が低い結果となった一方で、領域B：図形では、直方体の見取り図について理解する問題の正答率が10割であり、五角柱の意味や性質、底面や側面など立体を構成する要素に着目する問題の正答率が9割に達し、全国の正答率を2割ほど上回る結果となりました。問題を視覚的にとらえることが得意な傾向がある一方で、問われていることを文章から正確に読み取る力、正しく計算する力を育成することが課題となっています。

【改善策】

「図形」領域の正答率が非常に高い傾向にあります。これはタブレットなどを用いて図形や立体などについて視覚的に理解を深めることができているからだと考えられます。「数と計算」「変化と関係」「データの活用」領域など、知識・技能の基礎的な計算問題や用語などの正答率が低い傾向にあります。これからも、前年度までに学習した内容の学び直しにも力を入れていくことが大切です。朝活でのドリルパークの活用や宿題の中で定期的に前学年までの内容を出題する必要があります。国語と同様、他の学習でも自分の考えや大事な言葉（用語）を落とさずに短い文章で要約することなどを繰り返し行い、記述することに抵抗なく取り組めるようにしていくことも重要だと考えます。

○児童質問調査より

例年と同じく「朝食は毎日に食べているか」「毎日同じくらいの時刻に寝ているか」の質問には「当てはまる」「どちらかという当てはまる」との回答率が非常に高い一方、「メディアで動画を視聴する時間」「スマートフォンやコンピュータの使い方について家庭での約束を守れているか」の質問に対しては回答が二極化する傾向にありました。生活リズムを見直す必要について家庭によって差があるようです。

また、授業への取り組み方に関して、「タブレットを活用することによって画像や動画、音声等を活用することで学習内容がよくわかる。」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。」の質問項目に対して、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の回答をあわせると100%となっていました。ICTを効果的に活用し、協働的な学びを進めていることを児童自身が自覚している様子が見えます。

さらに、国語や算数について「授業内容はよくわかる」「勉強は大切だと思う」「将来社会に出た時に役に立つ」との質問に肯定的に回答する割合が全道・全国平均に比べ高く、理科と外国語については100%の回答率でした。専科教員による指導の成果が表れていると考えられます。また、国語や算数の「書く問題ではどのように解答したか」の質問に「最後まで解答を書こうとした」との回答が9割を占めていました。4年前から取り組んでいる、チャレンジテスト・単元テスト等の「空欄ゼロの取組」は、今回の全国学力・学習状況調査の結果にも出ており、国語・算数を通して、無回答は全問題で1問のみというのは、普段から取り組んできている成果だと思われます。

今後も職員が一丸となって、日常の学習指導や生活指導において、子供たちが「えがおでいきいき」過ごせるよう尽力していきます。

今後とも保護者の皆さま、地域の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

